

第2回下野市中学生海外派遣団

第2回下野市中学生海外派遣事業を実施しました。中学生海外派遣団は、3年に1度実施されており、今回は市内中学生16名が8月4日(木)～10日(水)にかけての一週間、姉妹都市・ドイツヘルツタールを訪問しました。

下野市とドイツヘルツタール市との関係は旧石橋町からの姉妹都市交流から数えて、現在36年目になります。

震災への支援

平成23年3月11日、東日本大震災が起こった際も、姉妹都市の皆さんは下野市に住んでいる私たちのことを大変心配してくださいました。また、下野市に対して、市民からの募金と、地元中学校で開催されたチャリティコンサートの収益金合わせて2万1千ユーロ(日本円で約250万円)を支援金として送ってくださいました。

今回の派遣の中でもドイツヘルツタールのシユテファン・アウラント市長を初め、シユテファン・シヨツル議長などから下野市や日本を心配する心からのメッセージをいただけてきましたのでご紹介します。

シユテファン・アウラント市長より 「歓迎パーティーにて」

最初に、日本の子供たちがバスから降りてきたときに「支援ありがとう Herzlich Dank für eure Hilfe」というメッセージを書いたTシャツを着ており感激しました。(中学生はドイツヘルツタールからの支援に対する感謝の気持ちを表すため、事前研修でメッセージTシャツを作成、対面式で着用した。)

日本からの訪問団は、今回で11回目であり、内6回は中学生の訪問となっています。日本から来た中学生、団長や引率の皆さんが今回の訪問を実現できて本当にうれしく思います。3月11

日の大震災に伴う原子力発電所の事故のなか、下野市にすぐに連絡がついたので安心しました。その中でも今回の訪問の実施を聞いて驚きました。

懇親会の今日、8月6日は66年前、広島に原子爆弾が投下された日です。それも悲しい思い出です。戦争、原爆のことを忘れないようにして、このレセプションを楽しみ思い出にしましょう。

大切な贈り物「友情」

さて、私たちは日本の震災を聞いて、5月13日にホルダーベルク総合学校でチャリティコンサートを開催しました。250名もの観客が来場しました。とても感動したのは、ドイツヘルツタールの子供たちからの協力がとても積極的に行われたことです。私たちは今後も下野市への支援活動を直接続けます。私たちはお互いが困っているときこそ助け合わなければならないと思います。

日本の文化の中で、贈り物やお土産というのは大切

だと聞いたことがあります。が、私たちにとって一番大切な贈り物は「友情」です。困ったとき、何か必要なことがあったら言ってくてください。私たちはいつでもサポートします。

第2回下野市中学生海外派遣 団報告会を開催しました

平成23年8月28日(日)、第2回下野市中学生海外派遣団報告会を開催しました。報告は団員一人ひとりがパワーポイントを使って、ドイツで生活した感想や派遣を通して得た経験を今後どう活かしたいかという内容をしっかりと自分の言葉を使って発表していました。



ドイツヘルツタール石橋庭園にて



歓迎パーティーにて

ドイツ人の家庭に一人で入ってホームステイをするという体験は、中学生たちに刺激を与えたようでした。来年3月には、姉妹都市から、今回ホストファミリーとなった学生が下野市を訪問します。その時までに英語力を磨いて、もっといろいろなことをお話したいという言葉が多く聞かれました。今回の派遣で新しくできた友達とメールアドレスなどの情報を交換した学生も多くいたようでした。今回の交流により築いた友好の輪を大きく広げてくださいます。

●問い合わせ先

生活安全課

☎(40)5555